

## 平成 30 年度全国普通科高等学校長会 教育課程研究委員会アンケート

### ◎研究協議主題

「新学習指導要領に向けた教育課程の研究」

### ○ 研究協議主題に添った3つの柱立て

- ① 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」に関する取組と課題
- ② 英語の4技能の育成と評価に関する取組と課題
- ③ タブレット等のICTを活用した授業の取組と課題

### ○「高校生のための学びの基礎診断」に関する調査

各問の回答については、全国高等学校長協会のホームページからダウンロードした「アンケート回答用紙」（エクセルファイル）に入力してください。（注：E-mail 添付ファイルにて回答する前に、調査対象高等学校長あての依頼文に記載した「6 回答の方法」により、ファイル名を変更してください。）

**問1**と**問2**は該当する符号を一つ選び、**問3～問6**の「複数回答可」は回答用紙の該当する符号の箇所（セル）に半角数字の「1」を入力してください。

「その他」の回答や「自由記載」については、回答用紙に文字をご記入ください。

### 1 学校に関する調査

**問1** 貴校は、次のうちどれに当てはまりますか。

(1) 設置者

- ア 国
- イ 都道府県
- ウ 市町村
- エ 学校法人等（私学）
- オ その他（ ）

(2) 課程

- ア 全日制普通科
- イ 定時制普通科
- ウ 通信制普通科
- エ 全日制普通科と定時制普通科併設
- オ 全日制普通科と定時制普通科と通信制普通科併設
- カ 全日制普通科と専門学科または総合学科併設
- キ 定時制普通科と専門学科または総合学科併設
- ク その他（ ）

**問2** 本年度の最終学年（年次）での、大学・短大を合わせた進学希望率はどの位ですか。

- ア 90%以上
- イ 70%以上～90%未満
- ウ 50%以上～70%未満
- エ 30%以上～50%未満
- オ 30%未満

## 2 先進的あるいは特色ある教育課程の実施状況について

**問3** 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」に関する取組と課題について

- (1) 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」について、貴校で工夫していることをお答えください。（複数回答可）
- ア 教育課程編成
  - イ 授業展開（特色ある授業等）
  - ウ 教員の指導力向上のための教員研修
  - エ 教員の指導力向上のための外部人材の活用
  - オ 校内組織体制の整備
  - カ 施設設備の整備
  - キ ICT活用
  - ク 評価（授業評価・学習評価等）
  - ケ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法
  - コ 特に工夫していない
  - サ その他（→具体的な取組の内容を（2）でお答えください。）
- (2) (1) で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。（回答は自由記載）
- (3) 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。（回答は自由記載）

**問4** 「英語の4技能の育成と評価」に関する取組と課題について

- (1) 「英語の4技能の育成と評価」に関する取組と課題について、貴校で工夫していることをお答えください。（複数回答可）
- ア 教育課程編成
  - イ 授業展開（特色ある授業等）
  - ウ 4技能の育成と評価に関する教員研修
  - エ 評価（授業評価・学習評価等）
  - オ 現在の民間検定試験の利活用
  - カ 校内組織体制の整備
  - キ 施設設備の整備
  - ク 外部機関や大学・事業所等との連携
  - ケ 予算編成の工夫等
  - コ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法
  - サ 特に工夫していない
  - シ その他（→具体的な取組の内容を（2）でお答えください。）
- (2) (1) で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。（回答は自由記載）
- (3) 「英語の4技能の育成と評価」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。（回答は自由記載）

**問5** 「タブレット等のICTを活用した授業」の取組と課題について

- (1) 「タブレット等のICTを活用した授業」について、貴校で工夫していることをお答えください。(複数回答可)
- ア 教育課程編成
  - イ 授業展開(特色ある授業等)
  - ウ 教員の指導力向上のための教員研修
  - エ 教員の指導力向上のための外部人材の活用
  - オ 校内組織体制の整備
  - カ 施設設備の整備
  - キ 予算編成の工夫等
  - ク 評価(授業評価・学習評価等)
  - ケ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法
  - コ 特に工夫していない
  - サ その他(→具体的な取組の内容を(2)でお答えください。)
- (2) (1)で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。(回答は自由記載)
- (3) 「タブレット等のICTを活用した授業」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。(回答は自由記載)

**問6** 「高校生のための学びの基礎診断」について

- (1) 現時点において、基礎学力を測定する手立てとして、貴校で活用しているものをお答えください。(「オ」以外は複数回答可)
- ア 学校独自の測定ツール
  - イ 都道府県等独自の測定ツール
  - ウ 民間業者の測定ツール
  - エ その他の測定ツール( )
  - オ 活用していない
- (2) (1)において「活用している(ア、イ、ウ、エ)」とお答えいただいた場合のみ、以下の①、②、③にお答えください。
- ① 貴校で工夫していることをお答えください。(複数回答可)
- ア 義務教育段階における学習内容の定着度合いの測定、確実な習得
  - イ 高校生に求められる基礎学力の定着度合いの測定、確実な習得
  - ウ 学習意欲の喚起
  - エ その他(→具体的な取組内容を②でお答えください。)
- ② ①で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。(回答は自由記載)
- ③ 活用する上で課題となっていることをお答えください。(回答は自由記載)

- (3) 現時点において、「高校生のための学びの基礎診断」導入の成果について、どのようにお考えですか。
- ア 期待できると思う
  - イ 期待できるとは思えない
  - ウ どちらともいえない
- (4) 現時点において、「高校生のための学びの基礎診断」の実施回数について、どのようにお考えですか。
- ア 1回
  - イ 2回
  - ウ その他 ( )
  - エ 未定
- (5) 現時点において、「高校生のための学びの基礎診断」の実施時期について、どのようにお考えですか。(複数回答可)
- ア 1学年：4月から6月
  - イ 1学年：7月から9月
  - ウ 1学年：10月から12月
  - エ 1学年：1月から3月
  - オ 2学年：4月から6月
  - カ 2学年：7月から9月
  - キ 2学年：10月から12月
  - ク 2学年：1月から3月
  - ケ その他 ( )
  - コ 未定
- (6) 「高校生のための学びの基礎診断」の実施に関する文科省からの情報発信、活用方策、実施上の課題等、様々な観点からご意見をお聞かせください。
- (回答は自由記載)

(観点の例：最新情報の周知方策、参加形態、実施会場、都道府県等教育委員会の関与、学校教員の関与する運営内容や負担、業者毎に基本・標準タイプの出題内容・難易度が異なること、記述問題の公正な採点等、情報の管理、結果の利活用方策(生徒・学校・教育委員会等)、結果の副次的利用(就職・進学)の可能性、受験料、地域・経済的事情への対応など)

※ ご協力、誠にありがとうございました。